

“tener lápiz” vs “tener un lápiz”: 生成語彙論からのアプローチ⁽¹⁾

大森 洋子

0. はじめに

スペイン語の日本人学習者にとって、冠詞の出現の有無、また定冠詞、不定冠詞の使用は、習得が非常に困難なテーマの一つである。大学でスペイン語を学ぶ際に、すでに英語で冠詞については学習しているはずであるが、その使用は英語とは異なる点が多々あるために、その特徴、英語との違いなどには、初級の段階で特に注意が必要であろう⁽²⁾。定冠詞、不定冠詞の違い及び冠詞のつかない例などは初級の段階でより意識して導入したいテーマである。

本稿では、ある種の動詞と現れる名詞が無冠詞で現れる例を取り上げ、この構造の特殊性を論じ、学習者へより分かりやすい説明を試みるための提案を行なうことにある。以下の例をみてみよう。動詞 llevar, tener の目的に現れる名詞は(1)では無冠詞であるのに対し、(2)の例では、無冠詞では文の容認可能性は下がることが観察されている。

(1) a. Lleva sombrero.

b. Tiene apartamento.

(2) a. ?Lleva lápiz.

b. ?Tiene tortilla.

(Manuel Leonetti, 2012, p. 289)

(3) a. Tiene novio.

b. ?Tiene hijo. (Elena de Miguel から)

これらの例では、単に動詞の特殊性として説明するのでは不十分であり、名詞の性質を分析する必要を示唆している。そこで、名詞の性質を生成語彙論から探り、無冠詞名詞の生起の可能性の判断基準を示すことが本稿の目的である。

1. 先行研究

この問題についての詳しい言及は、Bosque (1996)にあるが、最初の考察は、Amado Alonso (1933)である。その後何人もの研究者が取り上げている。

1.1 Amado Alonso (1933)

Lo fundamental en estos casos es que no se hace referencia en ellos a 《un objeto real》, sino a 《un objeto mental, una clase valorativamente considerada》 puesto que la 《ausencia de artículo corresponde al carácter puramente cualitativo con que el objeto es nombrado》

このなかで、彼は無冠詞の名詞は実際の物体を指しているのではないとし、従って、品質形容詞の修飾は不可で、関係形容詞の修飾が可能であるとしている。つまり、*Lleva sombrero bonito.ではなく、正しくは Lleva un sombrero bonito.であり、Lleva sombrero cordobés.の文では、

cordobés が関係を表す形容詞であるために無冠詞の名詞が現れることが可能であるとする。

1.2 Copceag (1964)

...con los singulares escuetos que complementan al verbo tener (como tener coche, tener computadora...) no caracterizan tanto el objeto poseído como poseedor “presentándolo como apto para hacer una acción determinada gracias al hecho de poseer aquel objeto”

Copceag (1964) は、tener+無冠詞の動詞は単に所有者—所有物の関係ではなくて、何かを所有していることによって何らかの行為が可能になることを示しているとする。

1.3 Lapesa (1966)

El objeto directo conserva autonomía significativa respecto del verbo, pero la mira del hablante no se dirige hacia los seres o cosas designados, ni tampoco a su género o clase, sino a lo que el conjunto verbo + objeto directo representa como signo valorable, situación o categoría social, hábito, etc.

彼の説明では、tener+無冠詞名詞それぞれの意味が結合しているとみるよりは、tener+無冠詞名詞全体が一つ価値、社会的なカテゴリー、状況を表しているとする。つまりは、tener coche, tener apartamento がその人の、社会的特徴として（車を持っている、アパートを所有しているなど）を表しているというのである。

1.4 Pease-Gorrisen (1980)

Sugiere que el que usemos un reducido grupo de sustantivos en estos contextos tiene

que relacionarse con el hecho de que el predicado ha de interpretarse en relación con la valoración del sujeto, por lo que las condiciones necesarias para lograrlo han de ser de tipo pragmático.

例えば、Juan ha comprado automóvil では、Juan の社会的状況にも言及されることで、語用論的な分析も必要であることを示唆している。

1.5 Bosque (1996 p. 41-45)

以上の研究を踏まえ、

...el problema de los SSEE estereotipados es “semántico” en tanto en cuanto en estos casos se crean predicados caracterizadores o “de nivel individual” Es “pragmático” en tanto en cuanto que los sustantivos discontinuos en singular que puedan aparecer en estos contextos no pertenecen a clases léxicas. Es “sintáctico”, en cambio, en tanto en cuanto las restricciones de localidad hacen suponer que el sustantivo discontinuo se incorpora en estos casos al verbo creando un solo predicado complejo que habrá de ser interpretado posteriormente si se dan las condiciones discursivas requeridas.

とし、この問題が、意味的側面、統語的側面、および語用論的側面と関連しているとする。意味的解釈は、

The semantics (for pseudo-incorporation) consists of two parts: a lexical rule that eliminates the internal argument of the verbs to which it applies without eliminating any entailments relating to the corresponding participant and a compositional rule which combines the property denoted by the BN

with the verb so as to provide a description of that participant.

つまり、動詞 tener と無冠詞の名詞が一体となっており、主語について描写している文であると特徴づけている。

1.6 Espinal M. and L. McNally (2009, 2011)

– These objects BNs (bare nouns) appear only in the complement position of a monadic syntactic structure whose head must be a V with a HAVE construal and that they are interpreted not as semantic arguments, but rather as verb modifiers.

彼らは、目的語に現れる無冠詞名詞について独立した項ではなく、動詞修飾として働いているとする⁽³⁾。

1.7 先行研究からの示唆と問題提

先行研究を通して、tener+無冠詞名詞では、それぞれ個々の意味の結び付きというより、全体で一つの意味を持つということ、無冠詞名詞は具体的なモノをさすことは無いことが理解できる。構造としては意味的統合が起っていると理解される。

しかしながら、これらの構造はどの名詞にもおきるわけではないことが指摘されている（参照(2)）。またそれぞれの名詞を特徴づける性質が関連することは分かりながら、それ自体にどのように言及されるかについては未だ説明されていない。

本稿では、これらの問題を明示的に説明する枠組みとして生成語彙論を採用し、どのように説明することが可能であるかを提示する。第2節では、分析の枠組みである生成語彙論について、枠組みの特徴、および説明の道具立てについて概観し、第3節において具体的な提案を行なう。第4節で

は結論および今後の課題を提示する。

2. 生成語彙論⁽⁴⁾

2.1 基本的概念：語彙主義アプローチ

語彙構造が統語構造に投射されるという主張が基本であり、その語彙構造は、レキシコンは少数の原則とルールによって支配されている。様々な多義性は、それらによって説明され、文が得る意味は語のつながりによって規定されるとする。この点では、理論は構成的であると言える。語彙項目は一つの語が得られるとされるいくつもの意味を包括できるように語彙構造は不完全指定の部分を含んでいる。この点で生成的な性質も備えている。

2.2 語彙表示レベル

語彙表示レベルとして、項構造 (argument structure)、事象構造 (event structure)、クオリア構造 (Qualia structure)、語彙継承構造 (Estructura de Tipificación Léxica) を提案している。

項構造とは、叙述構造の項の数を決定する。この項の中には実際に具現する真の項 *argumento auténtico*、解釈する際に必ず前提とするデフォルト項 *argumento por defecto*、さらに語彙の中に含まれている項を影の項 *argumentos en la sombra*、そして、付加詞 *adjuntos auténticos* があるとし、例えば、*Nadal ganó el partido.* では *Nadal, el partido* を真の項、対戦相手をデフォルト項とする。*ganar* では、必ず対戦相手を想定できるからである。場所等を表す項が付加詞と分類される。影の項での例は、動詞 *empanar* はその語の意味に *pan rallado* が含まれているとし、それだけであれば余剰的で実現されることは

ないが、なんらかの修飾語句等がつくことによって具現される項である。Luis empanó los filetes con pan rallado por su hermano.

事象構造とは、動詞のアスペクト的特徴による記述であり、行為の限界性、非限界性、動的か静的かなどを記述する。

生成語彙論の最も特徴的な概念がクオリア構造の記述であろう。これは、語彙項目に関連したその語をもっともよく説明する属性や事象の特徴、語彙情報のなかで1つの語が別の語とどのように区別されるかなどを記述する。語の基本情報は、構成クオリア（それがどのように構成されているか）、形式クオリア（他の類似するものとどのように異なるか）、目的クオリア（何のために存在するか）、主体クオリア（それがどのようにして存在するのか）を定義している。例えば、pista（競技用のトラック、レーン）を取り上げてみよう。

(4) a. una pista {de hierba, de cemento, de hielo}

構成クオリア

b. una pista {rojiza, cubierta, rectangular}

形式クオリア

c. una pista {de baile, de tenis, de patinaje}

目的クオリア

d. una pista {artificial, municipal, de diseño}

主体クオリア

これらが、他のモノとの関係、性質、およびイベントの関連性を記述する際のパラメーターとなる。つまり、一つの語が他の語と関係する際に、どのクオリアとの関連性が強調されるかによって、多義性の語がどの意味を持つかが決定される、と考えられる。

語彙継承構造とは、クオリア構造をもとにして、語彙情報のなかで一つの語が別の語とどのように区別されるかを記述するレベルである。例えば、novela, diccionario はともにモノであるが、主体構造では、一方は、書くことによって存在するもの、もう一方は編纂することに存在する、という違いがあり、これが *empezar la novela*, *empezar el diccionario* で意味に違いがでるといことが説明できるとする (*empezar la novela*: *empezar a leer, escribir* / *empezar el diccionario*: *empezar a redactar*)。

2.3 生成デバイス

2.2 で述べた語彙記述の4つのレベルは、本節で述べる生成デバイスによって他の語との構成的解釈を実現させる。

生成デバイスとは、それぞれの語の内部構造のどこが強調されるかによって、語の意味の調整を行なうデバイスと考えることができる。Doña Inés (se) salió del convento a una edad temprana. では、convento が、目的クオリア：institución と解釈されると、salir が単に空間的な意味ではなく、abandonar la actividad（ある活動をやめる）という意味になる。一方、タイプ強制 *coacción* では、動詞の選択制限とミスマッチを起こした場合に名詞の他のクオリア情報を読み込むことで解釈を可能にする。comprar una novela と *empezar una novela* を比較すると、comprar は項にモノを要求するのに対して、empezar はイベントを要求するために、名詞 (novela) の参照されるクオリアが異なることになる。hacer en el horno un pescado (un cordero) と hacer en el horno un bizcocho, un sufré では、hacer の意味が異なる。目的語に生起している名詞の主体クオリアが前者では、自然

物なものであるのに対して、後者では、あるプロセスによって生成されるものと規定される。このように、動詞の不完全指定された意味表示を名詞の語彙情報によって補完するプロセスを共合成と言う。

3. tener lápiz, tener un lápiz : 分析の提案

生成語彙論的立場にたって、動詞 tener のあとに現れる名詞の冠詞の有無について考えてみよう。ポイントは、tener の目的語に生起する名詞のクオリア構造のどこに言及するかにあると考える。本節では、動詞 tener の語彙記述、および、それがどのように目的語の位置に現れる名詞のクオリア構造と関連するのかを分析し、その後でこの分析の利点について考察する。

3.1 tener の項として生起する名詞

動詞 tener は状態、所有関係を表す動詞と定義できる。2 項を必要とする動詞でそこに所有者と所有されるものの関係が規定でき、その関係性が成立することでその意味（所有）が成立する。従って、tener は以下のように記述することができるだろう。

(5) tener --- estado

項構造：argumento x --- poseedor,

argumento y --- poseído

構成クオリア：poseedor, poseído

形式クオリア：P (estado, x)

目的クオリア：tener_estado (x, y)

主体クオリア：relación

さて、tener の項 — 所有されるもの — の目的クオリアが強調されると、tener は純粹の所有を表すという動詞の基本的な語彙の意味は軽減さ

れる。一方で名詞の構成クオリア、形式クオリアが強調されると、単なる所有関係を表すことになる⁽⁵⁾。

3.2 tener の目的語として現れる名詞の性質

例えば、ここでは、coche, lápiz, apartamento を例に考えてみることにしよう。coche は（パーツ）車体、タイヤ、エンジン、シート、ウインドーなどこのようなパーツから構成されているという知識：構成クオリア、種類、形など（スポーツカー、乗用車…）：形式クオリア、人や物を移動させる：目的クオリア：工業製品：主体クオリアである。lápiz は芯、材質：構成クオリア、下位分類：色鉛筆など：形式クオリア 物を書く：目的クオリア、工業製品である：主体クオリア、apartamento は、建物の一部で、パーツ（ドア、窓、部屋…）からなる：構成クオリア、居住、生活スペースである：目的クオリア、建てられるものである：主体クオリアとなる。これらの4つのクオリアを考えると、構成クオリア、形式クオリアは一つのモノとして言及する場合が多く、一方で目的クオリア、主体クオリアはよりそのモノの性質等に言及していると考えられる。

これらの名詞の目的クオリア、主体クオリアに言及されるときに、tener と共起した名詞は無冠詞で現れ、tener + 無冠詞名詞がその所有しているかどうかよりも何らかの特徴的な性質に言及することがわかる。従って、これらの名詞でも、例えば何らかの修飾語句がつくと無冠詞ではなく、冠詞を伴う。tener un coche lujoso, tener un apartamento bonito などでは、むしろ持っているものの具体的なモノの形状等に言及して記述していると言える。

3.3 tener lápiz vs tener un lápiz 生成語彙

論的アプローチの利点

生成語彙論に基づく分析の利点としては、第1に、tenerの項として現れる名詞全てが無冠詞で現れない場合について、より明示的な説明が可能になる点であろう。特徴的な性質が生じる場合と生じない場合とは、目的語として現れる名詞のクオリア構造と関係し、どの名詞が生起し、どの名詞が生起しないかを指定する必要はない。クオリア構造、動詞の意味共起など様々な要素、メカニズムによって、名詞の目的のクオリアが顕在化する場合があると説明することで解決される。

第2に、無冠詞名詞が現れるは、tenerだけではなく、例えば、Busco piso. Usa bastón. (Espinal y McNally 2009), Hice fotocopia. (*Rompí fotocopia. Adjunto informe. (*Altero informe.) (Bosque, 1996, 46)のように、他の動詞にも現れる。これらについても同じように動詞と共起している名詞のクオリア構造との関係、動詞のクオリア構造との関連を考えると説明できるだろう⁽⁶⁾。

第3に、単に動詞句に現れる無冠詞名詞だけでなく、例えば a casa, en clase, por teléfono, con cuchara などの例、ser modelo ... ser payayo などにみられる例などの説明にも有効である点である。無冠詞が出現する場合には目的クオリア、主体クオリアなどに言及している場合が多いと言える (M. Leonetti, 2012)。

最後に、次のような例についても説明が可能になるだろう。一般に、構成クオリアの一部を tener と共起させて無冠詞で使うと容認可能性は著しく低くなる。??Esta novela tiene título. ??Esta casa tiene puerta. しかしながら、これらを否定すると容認性が高まると言える。このよう

に否定で現れる例を同じ枠組みで説明できる点である。あるモノの構成、形式クオリアを否定することは、あるひとつの特徴として捉えられる。

4. まとめと今後の課題

本稿では、tener+目的語に現れる名詞の冠詞の有無についての説明では、tenerの語彙記述と目的語に現れる名詞の語彙記述、特にクオリア構造に言及することが有効であることを検討した。名詞の目的クオリア、主体クオリアが強調されることで、tenerが持つ所有の意味が希薄になり、目的クオリア、主体クオリアと関連する特質、状態が強調されると説明することが可能である。

今後の課題として、tenerが目的叙述補語とともに現れる場合の冠詞の必然性についての説明、*Tengo coche en el garaje. Tengo el coche en el garaje. Tengo un coche en el garaje. (Espinal y McNally, 2011b) これらも名詞の語彙構造から考えると同じような説明が可能と考えられるが、一方で tenerの所有の意味が薄れていることが観察されるために、さらに tenerのより綿密な語彙記述を検討することが必要である。

また、同じように他の動詞 (buscar, necesitar, desear, querer など) と共起する無冠詞名詞の出現と動詞句の意味記述を行なうことによって、目的語の位置に現れる名詞の冠詞の有無、また無冠詞名詞の出現についてより明示的な説明が可能となる。

注

- (1) 2013年9月に行なった SELE 2013の発表をもとにその後の考察を加えたものである。SELEの発表に際して頂いたコメントに感謝する。
- (2) 例えば、英語では I'm a student. となるがスペイン語は Soy estudiante. のように無冠詞で使

われる点、さらには主語に現れる名詞がスペイン語では冠詞なしで現れることは特殊の場合を除いてはないなど、初級者にとって最初に英語との使用の違いに気づかされる点である。

- (3) Morimoto Yuko (2011) では、諸処に現れる無冠詞名詞の特徴を個々のモノを指す機能を失い、限られた統語構造に現れるこれらの名詞はこの特徴を持っているとする。
- (4) この節は、主に Pustejovsky (1995) および小野尚之 (2005), Elena de Miguel (2008, 2009a) の概説を参考にまとめている。
- (5) tener のこの項に hambre, sed, sueño などの状態を表す場合も同じように考えられ, tener 自体は所有を表す意味は希薄となると考えられる。
- (6) これらの例には light verb (軽動詞) と共起する名詞の意味記述にも関連するだろう。

参考文献

- Alonso, Amado (1967) “Estilística y gramática del artículo en español” In *Estudios lingüísticos: Temas españoles*, 3ª edición, pp. 125-160. Madrid: Gredos.
- _____ (ed.) (1996). *El sustantivo sin determinación: la ausencia de determinante en la lengua española*. Madrid: Visor.
- _____ (1996) “Por qué determinados sustantivos no son sustantivos determinados: repaso y balance.” In Ignacio Bosque (ed.), *El sustantivo sin determinación: la ausencia de determinante en la lengua española*, pp. 13-119. Madrid: Visor.
- De Miguel, E. (2008). “Construcciones con verbos de apoyo en español. De cómo entran los nombres en la órbita de los verbos”. en I. Ola Moreno, M. Casado Velarde y R. González Ruiz. (Eds.) *Actas del XXXVII Simposio Internacional de la SEL*. Pamplona: Servicio de Publicaciones de la Universidad de Navarra.
- _____ (2009a). “En qué consiste ser verbo de apoyo”. en M. Victoria Escandell Vidal, Manuel Leonetti y Cristina Sánchez López (Eds.). *60 problemas de gramática dedicados a Ignacio Bosque*. Madrid: Akal.
- _____ (2009b). “La teoría de lexicón generativo” en E. De Miguel (ed.). *Panorama de la lexicología*. Barcelona: Ariel. pp. 336-368.
- _____ (2012) “Properties and Internal Structure of the Lexicon. Applying the Generative Model to Spanish”, en Sanz, M. y J. M. Igoa (eds.), *Advances in the Sciences of Language and their Application to Second Language Teaching*. Cambridge, Cambridge Scholars Publishing. pp. 165-200.
- Espinal, María Teresa and Louis McNally (2009). “Characterizing ‘Have’ Predicates and Indefiniteness” In M.T. Espinal, M. Leonetti and L. McNally (eds.), *Proceedings of the IV International Definiteness and DP Structure in Romance Languages*, pp. 27-42. Konstanz: Fachbereich Sprachwissenschaft Universität Konstanz.
- Espinal, María Teresa and Louis McNally (2011a) “Bare nominals and incorporating verbs in Spanish and Catalan”. In *Journal of Linguistics* 47, pp. 87-128.
- _____ (2011b) “Modificadores locativos del sustantivo sin determinante”. in *60 problemas de gramática*. Eds. M. Victoria escandell Vidal, Manuel Leonetti y Cristina Sánchez López. Madrid; Akal. pp. 152-157.
- Leonetti, Manuel (2012) “Indefiniteness and Specificity”. In José Ignacio Hualde et al. (eds.) *The Handbook of Hispanic Linguistics*. Oxford: Blackwell, pp. 287-305.
- Morimoto, Yuko (2011) *El artículo en español, Estudios gramaticales para la enseñanza del español como lengua extranjera*. Barcelona: Castalia.
- Pustejovsky, James (1995) *The generative lexicon*. Cambridge: MIT press.
- 小野尚之 (2005) 『生成語彙意味論』東京：くろしお出版。
- 小野尚之 (2008) 「クオリア構造入門」『レキシコンフォーラム No. 4』ひつじ書房 pp. 265-290.